

0 理念・目的・教育目標

進捗状況報告

理念にかかげた「自然科学の基本原理とその応用について教育と研究をおこない、自然科学と建学の精神であるキリスト教主義を基盤において人類の進歩に貢献する」人材を育てるための教育、またそのための方策となる少人数教育、先端的研究環境、科学倫理教育、体験的教育、情報教育、国際性の涵養については、概ね達成されていると言ってよい。特に、2007年度には、特色GP事業の一環として関学英語フォーラムの開催やオリジナルテキストの作成により英語でコミュニケーションできる人材を育てる教育の一層の充実を図った。また、高大連携の推進（「高等部理工学入門」16回、「啓明学院高校土曜講座」8回、その他出前講義約20件）、新聞広告、高校生向け本の出版、ホームページの充実、三田市内の小中学生の理科教育への協力、障害学生の受け入れ（2007年度4名在学）、広報戦略委員会の設置など社会との連携や情報発信も積極的に行った。さらに、同窓会との連携を重視し、社会で活躍している卒業生による講演会を神戸三田キャンパスにおいて開催した。

一方、18歳人口の減少、学力低下、理科離れ、環境問題に象徴される人間と科学のインターフェイスでの軋轢など新たな問題を抱える現代社会の中で、理工学部は関西学院大学唯一の理系学部としてその存在意義と真価が問われている。こうした状況を受けて、2009年4月より、自然科学だけでなく社会科学まで視座に収めた数理科学科と人とコンピュータとのかかわり方を深く探求する人間システム工学科の2学科増設、および生命科学科に2専攻、情報科学科に2コース設置を行う。これにともない、現在の4学科1学年360人から6学科1学年460人体制へと拡充する。2007年度は、この新たな体制への移行のための準備・検討が行われた。さらに、2008年4月には理工学部将来構想委員会を立ち上げ、長期的ビジョン策定を目指している。

学内第三者評価

学部としてめざすべき理念と教育目標や人材育成の目標が具体的に記述され、学部の目標と建学の精神との整合性についても配慮されている。また、それらに即して時代の変化に対応した研究教育の見直しが具体的に組み込まれており、その成果が注目される。あわせて学部改組に伴う長期ビジョンの策定は重要な取り組みであり、その進捗に期待したい。

なお、学外委員からは以下の意見があった。

理工学部の教育目的及び教育目標は、ホームページに分かりやすく明示されている。この教育目標等を達成する一つの事業として、2007年度においては、関学英語フォーラムの開催やオリジナルテキストの作成により英語でコミュニケーションできる人材を育てる教育の充実が図られたことは評価できる。今後、4学科から6学科にするなど体制の拡充が企画されているが、少人数教育を含め、理工学部の教育目的や教育目標が実現できる体制整備が期待される。